郷土館発
近況報告と今後の取組

師走を迎え、慌ただしい日々の中、本年も残すところわずかになりましたので、郷土館の近況について報告します。

一点目は、設楽ダム水没予定地などに係る埋蔵文化財発掘調査の成果報告

愛知県埋蔵文化財センター企画展「悠久の記憶」を二十七日間（開館日数二十四日）にわたり開催しました。

◇期間　八月三十一日(水)～九月二十六日(月)

◇展示資料　笹平遺跡始め七遺跡（七九点）

期間中、二度の三連休がありながらも、台風による雨の影響で入館者減を危惧しました。しかし、埋蔵文化財センターの専門職員による丁寧で分かり易い解説（四日・八回）が大変効果的で、町内外から二，四一八名の方々に観覧される機会を設けることができました。ご来館ありがとうございました。

そして、終了後の九月三十日から十月末日までは「パネル展」を開催し、さらに多くの来館者に成果情報を提供できました。

二点目は、上半期（四月～十月）一八四日における二階入館者数の状況

二二，四〇六名を数えています。また、当該七ヵ月間の「曜日別二階入館者数」を調べた結果、木曜日の九．五％（二，一三三名）が最も少なく、続いて金曜日が九．九％（二，二一九名）で、月・水曜日もほぼ同程度の割合で推移しており、平日四日間の合計数は、日曜日（八，〇六一名）一日分を千名程度上回る状況です。

三点目は、民間団体などによる二階ギャラリーの活用

十月三日から三十一日までの一ヵ月間、「海老布絵教室」による横八メートルを超える大作二点が展示されました。そのほか、昨年同様、十一月二日から十四日まで、町民文化祭として会員の方々の労作が展示されました。

この二件は、それぞれ郷土館の多面的な展示、住民参画、施設の活用の拡がりを示す形態として、今後のギャラリーの更なる展開に繋げたいと思います。

四点目は、民間バス会社ツアーの積極的な受け入れ

観光協会との連携により六件取り組みましたが、催行人数に達しなかったり、台風などにより三件が中止された中、「奥三河再発見ツアー」「奥三河旧田口線廃線ツアー」など、三件の受け入れを実施しました。

また小中学校のほか、県内の団体についても、愛知県史跡整備市町村協議会始め十一件、二五〇名余の入館を得ています。

今後については、二階常設展示の内容理解を深め、より入館者の増加を図るため、音声ガイドの導入及び、一階エントランスに二階有料展示室の映像を映し出す大型モニターの設置を計画しています。

また、二階ギャラリーでは、近世当時の家、田畑、道、社寺、小字、隣村名などの状況が描かれている「近世藩政村絵図」及び各村落の変遷一覧の展示を計画していますので、現在の地区の様子と比較してみてください。

次年度以降は、さらに常設展示と企画展（特別展）の二本柱を基軸に、ギャラリー活用を加え、年間を通してメリハリある展示に努めるとともに、観光協会の企画などと連携・相互補完することにより、全体の波及効果を高めつつ、観光資源としての役割も果たしていきたいと考えています。

そして、各種の展示を通して、訪れた人それぞれが懐古の思いのほか、興味・関心の深まり、新たな発見、深い理解に繋がることによって、新たなものの見方、考え方を感じとっていただければ幸いと思います。

こうした取り組みによって、町民が身近で愛着を感じ、町内外に誇れる施設づくりに努めなければならないと思います。

（奥三河郷土館長　原田　和久）